

「シジュウカラの成長」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

5月23日に孵化した、北軽井沢巣箱のシジュウカラ・・・9羽すべてがスクスクと育っている。孵化したばかりの時は非常に未熟な状態で、妖怪のような姿で生まれてきた。しかし、わずか10日余りで劇的に成長して、すっかり小鳥らしい姿になった。



「孵化翌日の状態」 9羽が固まって、モゾモゾ動いているだけの状態だった。まだ羽毛もない。



「孵化後12日目のヒナ」 すっかり小鳥らしくなっていて、眼も開き始めている。毛づくろいも自分でできる。

ヒナたちがいるつぼ巣のような場所(産座)の大きさも、かなり広がっている。それでも、9羽のヒナには相当に狭そうである。



どんなに狭くても、ヒナは産座から出ることは、絶対と言っていいほどない。時々押し出されてしまうヒナがいるが、そうになると、集団の中には簡単には戻れなくなる。写真では9羽全部が口を開いている。



親鳥はとにかく餌運びに忙しい。9羽もいると、母親だけでは餌が不足で、父親も頻繁に巣箱に入ってくる。一度に何匹もの幼虫をくわえてきて、ヒナに与えている。時にはバツも持ち込み、ヒナはそれも丸飲みにしてしまう。・・・子育ては見ている飽きない。